

株主通信 第57期

平成21年4月1日～平成22年3月31日



経営トップメッセージ



代表取締役社長
榎 春 夫

冬に出稼ぎをしなくてもいいようにと「地域社会の経済的発展に貢献」することを経営理念に掲げ、創業した岩塚製菓。日本の伝統ある食文化を世界に広め、人々に喜びと豊かさを提供し、「お米」のおいしさを創造する企業を目指します。

私たちの夢は、おいしさでNo.1でありたい、新鮮さでNo.1でありたい、おいしさにこだわる私たち自身がNo.1でありたい、そして世界中の人々においしさの笑顔をお届けすることです。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社第57期（平成22年3月期）の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当社グループは、収益構造の抜本的改革を行うことを目的に発足させたプロジェクトVによるV字回復への提言を受けて、製造ラインの見直しによる原価低減や既存商品のリニューアルを行い、品質にこだわりながらも買いやすさ・値頃感のある商品市場への積極的な参入とシェア拡大の取り組みを続けてまいりました。

米菓業界では、市場価格の低下と上位企業によるシェア争いなどにより、競争がますます激化しておりますが、全社一丸となり力強いV字回復を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましても、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

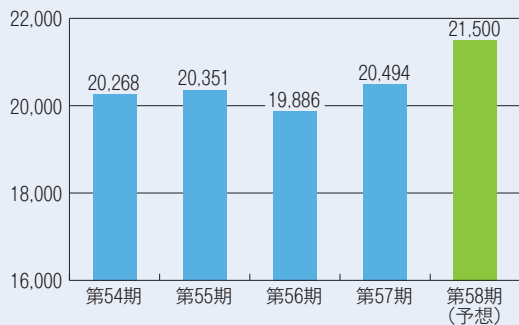
「お米」のおいしさ創造企業

「地域と共に生きる」



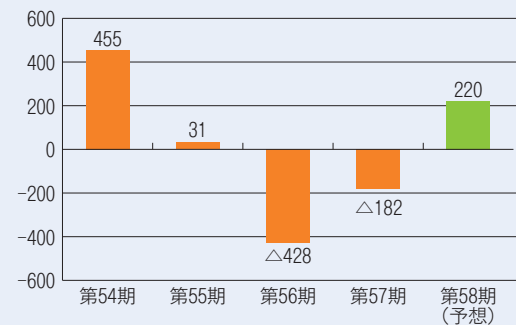
売上高(連結)

(単位：百万円)



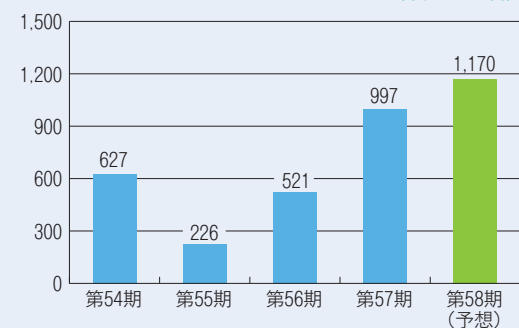
営業利益(連結)

(単位：百万円)



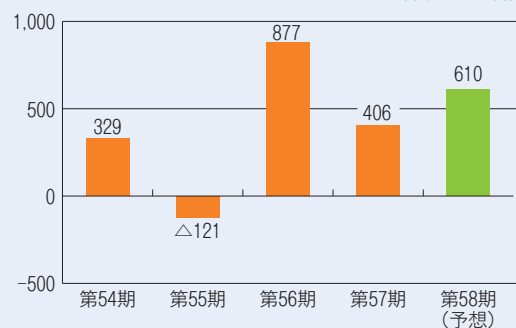
経常利益(連結)

(単位：百万円)



当期純利益(連結)

(単位：百万円)



当社では、創業以来の企業精神である品質第一主義と昭和62年のIPS（岩塚プロダクションシステム）導入以降の鮮度戦略を、徹底、継続して取り組んでまいりました。

その中で、当連結会計年度におきましては、利益構造の抜本的改革を行うことを目的に発足させたプロジェクトVの提言を受け、商品政策の見直しと包装工程の自動化などによるライン再編成などを行ってまいりました。

商品政策にあたっては、価格ゾーンをメインターゲットに合わせた商品のリニューアルを行いながら、マーケティング機能の強化や商品開発スタイルの見直しを図り、「米かりんと」「田舎のおかき」「えびかり」などの新商品を発売いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は204億94百万円（前連結会計年度比3.1%増）、営業損失は1億82百万円（前連結会計年度は4億28百万円の営業損失）、経常利益は9億97百万円（前連結会計年度比91.2%増）、当期純利益は4億6百万円（前連結会計年度比53.7%減）となりました。

平成22年3月に発売した「えびかり」は、札幌スープカレーで有名な「YOSHIMI」とのコラボレーション商品で、ガラムマサラを配合したオリジナルのカレー味と、ロースト海老パウダーを加えた本格感を楽しめる味わいが、お客様の好評を博しております。

また、平成22年2月25日には、飯塚工場（開発部、品質保証室を含む）、沢下条第一工場、製造本部（品質管理部、生産管理部、生産技術部、購買部）において、食品安全マネジメントシステムの国際規格ISO22000を認証取得いたしました。

当社グループは、中期経営計画「-NEXT60-米・技・心の継承と進化」の具現化に向けて策定した、3年間の中期計画「フェニックスプラン65」に基づき、お客様の心に感動を呼び起こす商品を提供し、力強いV字回復の実現を目指してまいります。

① 全社員参画のIPSの大展開

中期経営計画策定にあたり検討した子会社の立ち位置の明確化と今後の事業展開を踏まえ、成長戦略と企業体質の転換を図ってまいります。

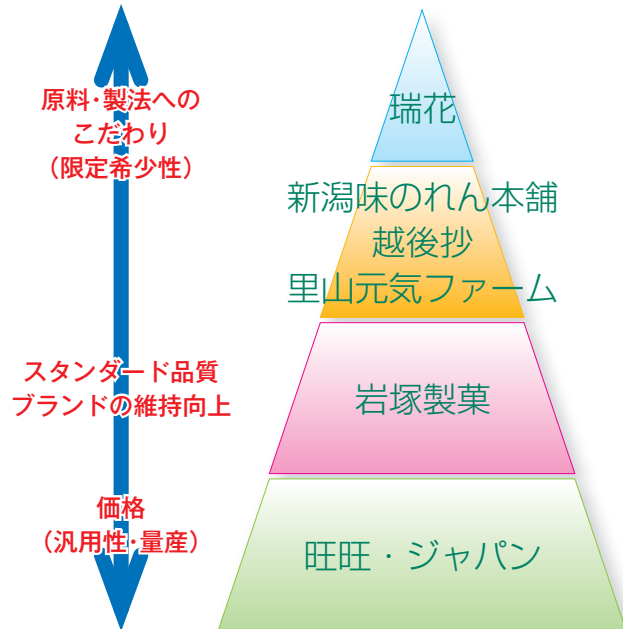
② 品質No.1・鮮度No.1・社員No.1の実現

ゼロサム社会に突入した米菓業界の中で、全国の小売業と企業対企業の取り組み強化を図り、フルチャネル体制の確立により、シェアの拡大を図ってまいります。その実現に向けて、価格政策だけでなく、人材補強を含めたマーケティング機能の充実化を図ってまいります。

人材の強化として、全部門での若手の育成や



フェニックスプラン65 フルチャネルに対応した事業展開



技能の強化に注力し、旺旺集団との研修制度などを含めた交流を促進してまいります。

また、当社の企業価値を高めるため、全社員が誇りを持てる企業体質を構築してまいります。おいしい商品の提供のみならず、社会貢献の輪を広げることにより、地域社会の発展、ひいては日本の発展に貢献できるよう努めてまいります。

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当期	前期
	平成22年3月31日現在	平成21年3月31日現在
（資産の部）		
流動資産	5,751,955	3,886,277 ①
固定資産	49,387,117	36,733,082 ②
有形固定資産	7,164,494	7,157,462
無形固定資産	59,221	61,388
投資その他の資産	42,163,401	29,514,231
資産合計	55,139,073	40,619,360
（負債の部）		
流動負債	6,730,582	5,351,044 ③
固定負債	15,363,267	10,080,710 ④
負債合計	22,093,850	15,431,755
（純資産の部）		
株主資本	9,282,155	8,950,988
資本金	1,634,750	1,634,750
資本剰余金	1,859,250	1,859,250
利益剰余金	6,153,679	5,822,273
自己株式	△365,523	△365,284
評価・換算差額等	23,743,735	16,211,469
その他有価証券評価差額金	23,762,999	16,234,358
為替換算調整勘定	△19,263	△22,888
少数株主持分	19,331	25,147
純資産合計	33,045,223	25,187,605 ⑤
負債純資産合計	55,139,073	40,619,360

①流動資産

受取手形及び売掛金及び短期貸付金が増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して18億65百万円の増加となりました。

②固定資産

時価評価により投資有価証券が増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して126億54百万円の増加となりました。

③流動負債

短期借入金が増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して13億79百万円の増加となりました。

④固定負債

投資有価証券の時価評価に伴い繰延税金負債が増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して52億82百万円の増加となりました。

⑤純資産合計

利益剰余金及びその他有価証券評価差額金が増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して78億57百万円の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当連結会計期間
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,297,964 ⑥
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,869,996 ⑦
財務活動によるキャッシュ・フロー	580,964 ⑧
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35,377
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△26,444
現金及び現金同等物の期首残高	546,445
現金及び現金同等物の期末残高	520,000

連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	当 期	前 期
	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
売上高	20,494,954	19,886,327
売上原価	13,167,029	13,442,008
売上総利益	7,327,924	6,444,318
販売費及び一般管理費	7,509,962	6,872,724
営業損失（△）	△182,037	△428,405
営業外収益	1,243,438	1,058,639
営業外費用	63,530	108,282
経常利益	997,870	521,951
特別利益	497	1,189,453
特別損失	13,704	246,448
税金等調整前当期純利益	984,663	1,464,956
法人税、住民税及び事業税	552,041	506,059
法人税等調整額	32,583	87,253
少数株主損失（△）	△6,462	△5,494
当期純利益	406,500	877,137

⑥営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益9億84百万円及び減価償却費7億52百万円を計上した一方で売上債権が5億56百万円増加したことを反映したこと等により、12億97百万円の獲得（前年同期は6億95百万円の使用）となりました。

⑦投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出7億64百万円及び貸付けによる支出10億90百万円等により、18億69百万円の使用（前年同期は6億77百万円の獲得）となりました。

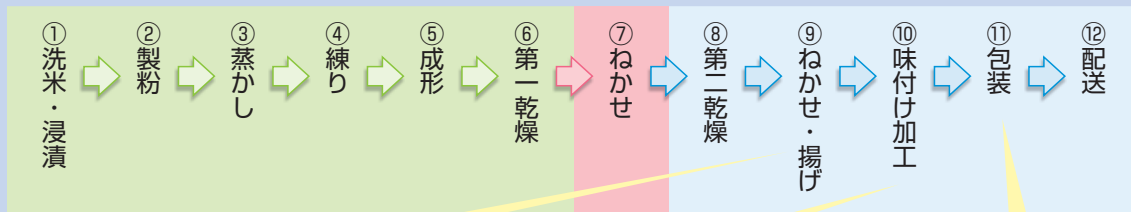
⑧財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増加額12億30百万円を計上した一方で長期借入金の返済5億68百万円及び配当金の支払額74百万円を反映したこと等により、5億80百万円の獲得（前年同期は76百万円の支出）となりました。



「えびカリ」工場の秘密！

普段は見ることのできない「札幌カレーヨシミ」とのコラボレーション商品「えびカリ」の製造工程を、株主の皆様に、少しだけお見せします。



⑨揚げ



乾燥させ水分量を調整した生地を高温の油で揚げます。

⑩味付け



揚げたてのおせんべいに特製スパイス「ガラムマサラ」を振りかけます。

⑪包装



自動計量機で1袋分が計量され、包装袋に入れられます。

生まれ笑顔!!
PHOTO
フォトキャンペーン!
 思わず笑顔になっちゃう写真を送ってね!

キャンペーン
 期間
 2010年 6.1 (火) ~ 7.31 (土)

抽選で
300
 名様

JCB
 ギフトカード
**3,000円分を
 プレゼント!**



このマークが目印!!



岩塚製菓の商品と一緒に撮った
「笑顔あふれる写真」を送って当てよう!

岩塚製菓の商品すべてが対象です!!

◎応募方法

対象商品または対象商品パッケージが入った「笑顔あふれる写真」を応募フォーム、または携帯キャンペーンサイトからご投稿ください。



◎応募期間 2010年6月1日(火)～7月31日(土) ※最終日24時(事務局受信分)まで有効です。

より高い品質と安全と安心を求めて

当社は米菓製造メーカーとして安全で良質な商品をお客様に提供することで、お客様に安心と満足を提供したいとの考えから、2009年4月1日に「食品安全・環境方針」を掲げ、ISO22000の取得に向け取り組んでまいりました。

その結果、2010年2月25日、飯塚工場（開発部、品質保証室含む）、沢下条第一工場、製造本部（品質管理部、生産管理部、生産技術部、購買部）において、「ISO22000：食品安全マネジメントシステムの国際規格」の認証を取得いたしました。



なお、「ISO14001：環境マネジメントシステムの国際規格」の認証を2004年に沢下条工場（第一工場、第二工場、第三工場、第四工場）にて取得し、2008年には適用範囲を本社、飯塚工場、中沢工場、長岡工場、千歳工場、R&D・Mセンターまで拡大し、環境負荷低減にも積極的に取り組んでおります。

ISO22000におけるこの度の認証取得は、飯塚工場、沢下条第一工場、製造本部となっておりますが、今後、他の工場におきましても認証拡大に向けた取り組みを行ってまいります。

適用規格	ISO22000：2005
認証機関	株式会社 日本環境認証機構
認証日	2010年2月25日
登録番号	FC09J0004
認証取得工場	飯塚工場（開発部、品質保証室を含む） 沢下条第一工場 製造本部（品質管理部、生産管理部、生産技術部、購買部）



「つくる人」「たべる人」をつなぎます。

岩塚直売店 休憩所オープン

里山元気ファーム

～お客様の集う場所、そして岩塚製菓の情報発信基地～

里山元気ファームは、越後・長岡の「食べ物のうしろにあるもの」を伝えながら、つくる人と食べる人が行き交う市場＝縁を大切にすることをしたい、それが私たちの“ファーム”だと考えています。

私たちのファームの成長は、支えていただくお客様と生産する方々の満足度とともにあると考え、お客様が集える休憩所をオープンしました。

越後・長岡の農産物も販売している、岩塚製菓グループの情報発信基地へ、ぜひ一度お越しください。

<http://www.satoyama-genki.jp/>



将来を担う 子どもたちへ… 岩塚製菓の食育活動



当社では、ホームページ内のコミュニティサイトや田んぼオーナーキャンペーンなどを通じて、子どもたちに「食」の大切さを伝える活動を行っています。

小さなお子様や胃腸が弱っている方にもやさしい、溶けるような柔らかさの「お子様せんべい」の秘密をホームページで公開するなど、Kidsとママのコミュニティサイトを展開しています。

岩塚のお子様せんべいの巻

その1 お子様せんべいの長い歴史



「岩塚のお子様せんべい」を紹介するよ！

お子様せんべいがこの世に生まれたのは、なんと40年以上も前、1966年のことなんだ。

それからずーっと、愛され続けている「おこせん」だから今お母さんになっている人のなかには、「小さいとき食べていた!」という人もいるんじゃないかな?

実は発売した頃から、パッケージデザインもほとんど変わらないんだよ。

なるほど、レトロな雰囲気がつぶりだよね。

次はこのイラストを描いた人たちを紹介するよ!

続きは、ホームページへ!

<http://www.iwatsukaseika.co.jp/knowledge/okosama.shtml>

会社の概要 (平成22年3月31日現在)

社名	岩塚製菓株式会社		
主要な事業内容	米菓の製造販売		
本社所在地	新潟県長岡市浦9750番地		
設立	昭和29年4月27日		
資本金	16億3,475万円		
従業員数(連結)	930名		
	他、準社員・嘱託・パート186名		
主要な事業所	本社、R & D・Mセンター 工場：飯塚、沢下条（第一・第二・第三・第四）、中沢、千歳、長岡 支店：札幌営業課、広域、仙台、新潟、東京東、東京西、名古屋、大阪、西日本		
役員	代表取締役社長	榎 春夫	常勤監査役(社外) 関 春夫
(平成22年6月24日現在)	取締役	中静 幸治	監査役 平石 毅一
	取締役	丹羽 文夫	監査役(社外) 佐野榮日出
	取締役	郷 芳夫	
	取締役	大矢 俊寿	
	取締役	小林 正光	
子会社・関連会社	株式会社瑞花	里山元気ファーム株式会社	
	株式会社新潟味のれん本舗	瀋陽岩旺米粉製造有限公司	
	株式会社越後抄	旺旺・ジャパン株式会社	

ホームページリニューアル

<http://www.iwatsukaseika.co.jp/>

平成22年3月にホームページをリニューアルいたしました。お客様をはじめ、投資家の皆様に、当社の会社情報や商品情報、IR情報などをより分かりやすく、より迅速にご提供してまいります。ぜひ、今後のご参考に、ご利用ください。



株主メモ (平成22年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
基準日	毎年3月31日 その他あらかじめ公告する一定の日	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
お問い合わせ先	証券会社に口座をお持ちの場合 特別口座の場合	
(お取扱店)	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 0120-288-324 (フリーダイヤル)
(ご注意)	未払い配当金の支払い、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」のお問い合わせ先をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買はできません。株券電子化前に名義書換えを失念して、お手元に他人名義の株券がある場合は、みずほ信託銀行株式会社まで至急ご連絡ください。
公告の方法	電子公告 http://www.iwatsukaseika.co.jp/	

株式データ (平成22年3月31日現在)

発行可能株式総数	23,980,000株
発行済株式の総数	5,995,000株
株主数	4,434名

大株主(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
岩塚製菓共栄会	316,500株	5.48%
株式会社紀文食品	305,000株	5.28%
株式会社北越銀行	280,000株	4.85%
平石 毅一	264,346株	4.58%
UBS AG SINGAPORE	237,000株	4.10%
榎 政 男	235,805株	4.08%
株式会社第四銀行	200,000株	3.46%
榎 キ ク	162,619株	2.82%
岩塚製菓従業員持株会	158,100株	2.74%
株式会社魚沼運輸	115,000株	1.99%

注) 上記は、当社所有の自己株式218,589株を控除して計算しております。

株主優待制度

当社では、日頃のご厚情に感謝し、当社株式を100株以上お持ちの株主様に当社製品を贈呈いたします。9月30日現在の株主様には12月に、3月31日現在の株主様には6月に発送いたします。

100株以上の株主様
1,000円相当

500株以上の株主様
2,000円相当

1,000株以上の株主様
5,000円相当

*2,000株以上の株主様
5,000円相当

*2,000株以上お持ちの9月30日現在の株主様には翌年3月、3月31日現在の株主様には9月にも贈呈いたします。

なお、基準日以降に住所変更のお手続きをされた方は、ご優待品が届かない場合がございますので、予め当社までご連絡ください。

岩塚製菓株式会社 管理部総務課 〒949-5492 新潟県長岡市浦9750番地
Tel: 0258-92-4111 Fax: 0258-92-6060



イメージ写真

